



# 清水小だより

清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

## 子どもが創る「動きだす子 清水小宣言 100%」

### ～清水小カーニバルをとおして～

6月27日に行われた清水小カーニバルは、子ども達の笑顔と歓声、保護者の皆さんの温かなまなざしに包まれた、学校が経営目標に掲げる「温かな居場所」であることの大切さを再確認できた1日になりました。ご来場いただいた方はもちろん、ここまで、子ども達が一生懸命準備したり、考えたりする姿を励まして頂いた全てのご家庭に感謝申し上げます。

また、学校としても、昨年までは、感染症対策として複数の実施パターンを準備し、直前まで開催方法の検討に追われましたが、今回は、全職員が子ども達とカーニバルを創りあげることに全力で向かい合えたことが本当にうれしかったです。

閉会式では、校長の話の中で児童委員長さんにインタビューをしました。私が「スローガン（えがお満開 カラフルスター）を作るときに大切にすることは何ですか？」と聞くと、「校長先生が始業式で話した“動きだす子”（←重点目標です）が、カーニバルで私たちがどうすることがつながるのかを考えました。」と、さらに、「委員長さん自身は、どんな動きだす子を意識しましたか。」という質問には「カーニバルを成功させるために、清水小宣言の“さわやかなあいさつをかわします”をいつも以上にがんばりました。」とそれぞれ答えてくれました。学校の目標を子供自身が自分のこととして向き合い、呼びかけていく姿がとても頼もしく感じました。そして、委員長さんの発言を大きな拍手で称える子ども達の姿から、委員長さんをはじめとする、児童委員の子ども達の願いが、全校に受けとめられたことを確信できました。

同時間に行われた学校運営協議会でも、委員の皆さんから、「1年生がペアの6年生の教室の前でたくさん待っている姿がよかった。」「子どもも大人も笑顔で喜んでいる。」「大人も参加できることがとても新鮮だった。」という感想をいただきました。

最後に、私が校内をまわっているときに、多くの方と「こんにちは」「お世話になります」とあいさつを交わすことができました。私が声をかけるよりも先にごあいさつをいただいた方もたくさんいます。とても温かい気持ちになったことはもちろんですが、大人同士があいさつを交わす姿を見ることが、子ども達にあいさつの大切さを伝える何よりの方法だと感じました。

校長 武藤 剛

※子ども達の活動の様子を学校ホームページでごらんください。

<https://www.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2210004>



6月号では、私（教頭）のオランダでの経験を少し御紹介しました。何人かの保護者の方から興味をもって読んでいただいたことをお聞きでき、嬉しかったです。なお、同時に募集しました学校だよりの内容についてのアンケートは、今のところ回答ゼロですが（笑）、引き続き募集中ですので、思いつきましたら、ぜひ教えてください。

## 「動きだす子＝主体性をもった子」を育むために

前頁では、今回は「動きだす子」がテーマでした。清水小の今年度の重点目標「動きだす子」とは、言い換えれば「主体性をもった子」とも言えるかと思います。「VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代」と言われる現代社会では、これまで日本の学校教育で重んじてきた「言われたことを忠実にできる人」ではなく、よりよい世界にするために「自分で考えて、自分から動くことができる主体性をもった人」が求められると言われていています。

では、どうしたら主体性をもった人を育むことができるのか……。6月号で「夏の期に、学校として重点的に取り組むこと」としてあげられた6つの内容のうち、特に「③子どもの『やってみよう』が可能な限り形になるよう一緒に考えます。」と「⑤学習や生活上の準備や環境を整えすぎることがないようにし、子ども自身の判断や経験の蓄積を大切にします。」にヒントがあると思います。簡単に言えば、**子供自身が、自分や自分たちのことを自己決定する機会を多く設けることがポイント**であると、私は考えます。

オランダの話ばかりで恐縮ですが、オランダで何度か視察する機会があった現地校では、日本の学校で当たり前のように行われている「(教員の)チョーク&トーク」で、一斉一律に「教える」学びは一切、見ませんでした。子供たち自身が自分で「学ぶ内容」「学ぶ場所」「学ぶペース」を選んで、自分で進める学びのスタイルに衝撃を受けたのです。日本の3周先を行くとも言われるオランダの教育という「イェナプラン」という教育コンセプトが有名で、日本でも広島県福山市や名古屋市の公立小学校で、その考え方を取り入れた学校が誕生しています。イェナプランでは異年齢の学級編制の中で、「子供が自分で時間割を作り、自分で学びを進めていく学び（個別最適化された学び）」と「ホンモノから問いをたて、協働的に探究を進めていく学び」を両輪とした学びが展開されます。令和3年度に出された「令和の日本型学校教育の構築を目指して」も、目指す方向性は同じと考えます。「動きだす子＝主体性をもった学び手」を育むためにも、学校での学びの形も、常にアップデートしていきたいと思っています。

## 「えがお満開カラフルスター」～カーニバル開会式で披露した写真集～

27日に開かれた清水小カーニバルの開会式で「準備の様子で見られた『笑顔』の写真」がフォトムービーで流されました。その一部を御紹介します。子供たちの笑顔は、本当にステキです！

